

2008年10月・11月セミナー&イベントのお知らせ

すべて、
予約が
必要です。

社団法人コミュニティネットワーク協会・高齢者住宅情報センター主催

「ひとりの老後はこわくない!! ～ひとりに不安を感じたら…コミュニティのある暮らし～」



「21世紀はひとり家族の時代」と言い続けてこられた松原惇子さんに、「ひとりの老後」を幸せに過ごすための秘訣をうかがいます。

講師：松原 惇子さん（ノンフィクション作家）

- 日時：10月31日（土）14時～16時
- 会場：銀座プロッサム（中央会館）マーガレット ● 参加費：無料

「今から考える、安心した老後の暮らし方」

関東地方近隣の有料老人ホームや高齢者向け住宅約10社が参加予定。高齢者住宅情報センターの相談員が専門的なアドバイスを行います。他にも入居者による入居の動機や実際の暮らし方についての体験談等、盛りだくさんの一日。ぜひ、ご参加ください。

- 日時：11月26日（水）11時～17時 ● 会場：シダックスホール2階 ● 参加費：無料

お申込みは ☎：0120-352-350 FAX：03-5550-0126

「那須100年コミュニティ」予定地を見に行こう!

10/10、10/18 現地見学会を開催しました。

那須ここに移り住み、野菜づくりを始められた恩塚洋さんにお話を伺いました。きれいに手入れされた畑にみなさん目を丸くしておられました。



9/28「那須100年コミュニティ」の食を考える会を開催しました。

前回に引き続き、箱膳を体験。山栗の炊き込みごはんなど秋のメニューに、「大勢でお膳を囲むのは楽しい」と好評でした。



編集後記

那須池田事務所は、まもなく初めての冬を迎えます。先日、ご近所でシーズン初めての鍋パーティー。何よりの寒さ対策は、見守ってくれるご近所とのつながり、と実感しています。次号より、「なす通信」冬休み版となり、はがきバージョンにてお届け予定です。次号、11/15 発行予定です。

お知らせ

これからの現地見学会日程

11/15（土） 11/28（金） 12/13（土）
10:10 新白河駅集合→生活利便施設見学→プロジェクト現地見学→那須にて昼食→地元の方と懇談→那須町見学（温泉・道の駅・・・）→16:30 那須塩原駅解散（スケジュールは変更になる可能性があります）
●定員：10名 ●費用：無料 *但し、昼食代・交通費は自己負担となります。

なす那須通信

発行：「那須で100年コミュニティをつくる会」（社団法人コミュニティネットワーク協会）
〒345-0302 栃木県那須郡那須町大字高久丙1777-434サンロード池田 ☎0120-81-7215 FAX：0287-76-7434

vol. 5



いっぱいのご来場、本当に、ありがとうございました。

「おひとりさまの老後」を支えるしくみづくりフォーラム風景（9月27日 黒磯文化会館）

フォーラム盛況のうちに終了! 「おひとりさまの老後」を支えるしくみづくりへ向けて…

9月27日（土）、上野千鶴子さん（東京大学大学院教授）と浅川澄一さん（日本経済新聞社編集委員）をお招きし、「おひとりさまの老後」を支えるしくみづくりフォーラムを開催しました。会場となった那須塩原市の黒磯文化会館は、ほぼ満員。地元的那須塩原市、那須町をはじめ、宇都宮市、群馬県、さらには遠く北海道、新潟、東京から本当にたくさんの方が来場くださいました。

「あなたの住むまちには、『おひとりさまの老後』を支

えるしくみ、地域介護資源は、ありますか？」上野さんから、そんな大きな問いかけがありました。ひとりでも最後までその人らしく、安心して住もうために、必要な人材やインフラが地域にあるかは大きな問題です。

「那須で100年コミュニティをつくる会」では、いよいよ設計部会の立ち上げ準備に入り、地域と入居希望者を交えて、このしくみづくりに向けた議論をスタートさせます。「おひとりさまの老後」を支えるしくみを、大きな連帯の輪の中でつくっていきたいと思います。

講演

上野千鶴子さん(東京大学大学院教授)



私のような「おひとりさま」が、老後どこに住むか決めるときの基準はなんでしょう。それは気候温暖、風光明媚...ではありません。そこに、「おひとりさまの老後を支える地域介護資源」があるか、です。つまり、訪問介護・訪問看護・訪問医療の3点セット、これを支える人材育成と創業支援を、地方自治体がもっとやってくれるといいなあと思っています。

浅川澄一さん(日本経済新聞社編集委員)



高齢者が共同住宅に住み、かつ「小規模多機能型居宅介護」というケアがその中にあることで、自宅でのケアの不安を解消することができます。自分たちの地域に住宅を、ケアを呼び込むということです。これが全国で起これば、大型の、遠くにある高齢者施設に通うことがなくなる。新しいまちづくりと一体となった暮らしができるのではないかと思います。

パネルディスカッション

——孤独死の問題について

上野 孤独死とひとり死は違うんです。吉田太一さんの『遺品整理屋は見た』という本を読んで、私はとてもほっとしたんですね。死後何ヶ月も経って発見される方のほとんどは、まだ高齢期に入っていない55～65才の男性!...だったんですね。これは、孤独死というより「孤立死」です。つまり、孤立した生き方をしてきた人の孤立した死で、ひとり死とは違います。「ゴルフ場である日パタッと死ぬのが理想」と言ったエコノミストがいますが、つまり、「死や老いについては見たくない、聞きたくない、考えたくない」ということ。そんな人には、今の高齢者福祉の政策決定には関わってほしくないですね。

浅川 日本の医療は「異常なまでに」進歩して、本来のその人の活動ができなくなっても生かされてしまう現状があります。やはり死ぬのは本人だけであって、周りがどう思おうと本来関係ないはずなんです。3日間連絡がなければ訪問してくれるというような人間関係があれば、必ずしも病院や施設にいる必要はない。むしろ、特別養護老人ホームに入った方はほとんど来訪がないですよ。亡くなって初めて、年金がどうだ遺産がどうだ

と、親族がやってくるというのはよく聞く話です。本来、その人がどう生きてどう死にたいかはその人自身に任せるべきだろうと思っています。

——成年後見人制度について

上野 私は、家族を成年後見人にするにはお勧めしません。それは家族は利害の当事者だからです。そもそも、たった一人の人に資産、介護全てを託すのはリスクが大き過ぎますね。私が提案したいのは、複数の専門家が「ライフマネジメントチーム」として、チームケアをする仕組みです。資産、介護関係の専門家が、お互いに本人の不利益になることをしていないか、監視し合いながらチームケアをする仕組み、これができたらいいですね。

浅川 家族後見については、私も同様の意見です。複数の後見人がつくのは、法人後見、ひとりがつくのが個人後見ですね。私は、個人後見の方が本人の利益になると考えています。なぜなら、法人後見では、本人に対する情報の共有が進まないんですね。同じ人物に対して違う専門家が接して、生活環境やライフスタイルなどバラバラの見解を持って対応することになってしまう。実際、現場の様々なトラブルを見る限り、私は個人後見の方がよいように思っています。

フォーラムアンケートから

アンケートに答えてくださった146名のうち、現在ひとり暮らしの方が22名(15%)、ご夫婦での同居が102名(70%)、ご両親との同居が20名(14%)でした。お住まいは、地元的那須町・那須塩原市が72名(50%)、県内他市からも41名(28%)となりました。

元気なうちにきちんと考えたいという方のご参加が目立ちました。

- まだ先のことと思いつつも、どのように老後をごすか考える歳になり、ぜひ話を聞きたかった。役に立ちました。(宇都宮市・50代女性)
- 非常に身近な問題で興味があつた。今回は、経済的に生活費以外に余裕がない者はどうなるのか聞いてみたい。(那須町・70代女性)
- 今は家族も元気であるが、将来の生活設計も考えておきたいと思い、参加しました。上野先生のお言葉ひとつひとつ考えさせられ感動しました。(小山市・60代女性)
- 現実には程遠い気がする。この話題が町全体に広まることを期待します。(那須塩原市・50代女性)
- 主人の定年を期に、那須に越してきました。どちらかひとりになったとき、他の仲間と暮らしたいと思いますが、どのような暮らしができるか考えたく参加しました。(那須塩原市・50代女性)
- 看護師としてデイサービスに勤務しています。いろいろな例を見せていただき勉強になったが、反面、私たちは職業的にどこまで進んでいけないのかと考えさせられました。(不明・40代女性)

プロジェクトピックス

職

11/2(日)、那須「森林ノ牧場」プレオープン!

9月23日から5日間、森林酪農予定地で電線の牧柵を設置する作業が行われました。参加したのは、帯広産業大、日本獣医生命科学大の学生さんら総勢8名。3万坪の敷地の外縁に、7m間隔で杭を打ち込み、全長およそ1.5kmの電線を張り巡らせて完成です。那須プロジェクト事務所に連日泊まり込んで、早朝から夕方までの熱心な作業、本当にご苦労さまでした! 牛が冬季に食べる下草を生やすための間伐も終わり、受け入れ準備の整った予定地に、いよいよ牛たちがやってきます。11/2



(日)、地域の方々や関係者を招いてプレオープン・セレモニーを開催します。

住

設計部会の準備が始まります

設計コンペも終わり、いよいよ設計第一案の作成が始まります。コンペ優勝者の近藤さん、瀬戸さんを中心に、コンペ原案と「那須100年コミュニティ」のコンセプトや予算を再度すり合わせし、行政との調整等を経て、たたき台としての第一案を作ります。そこからいよいよ、入居希望者を交えての設計部会がスタートする予定です。

設計部会には、「那須100年コミュニティ」に入居、参加、協働したい方が参加します。住まいのエネルギー、環境、交通の問題、そして間取りなど、どこを重視しどこを削るか、設計士さんを含めたオープンな議論をしていきたいと思っています。まず、近々第一案を発表します。参加型の住まいづくりのスタートを、どうぞお楽しみに!